

カツオ 大西洋

Skipjack, *Katsuwonus pelamis*



管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

生物学的特性

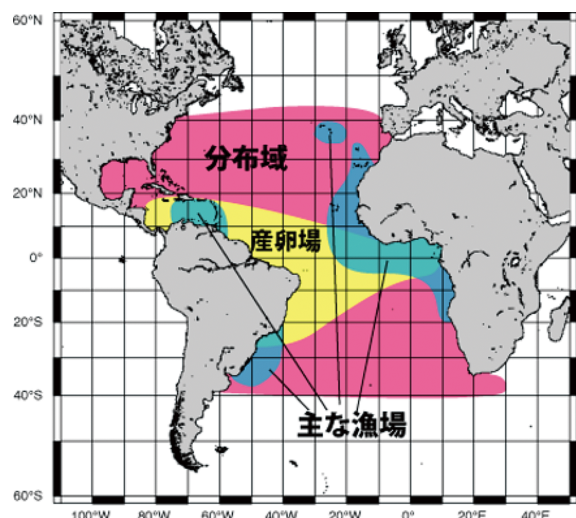
- 体長・体重：尾叉長 100 cm・15 kg
- 寿命：6歳以上
- 成熟開始年齢：満 1～2 歳
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24℃以上の海域
- 索餌期・索餌場：熱帯～温帯域
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海鳥類等

利用・用途

缶詰等の加工品

漁業の特徴

主要な漁業は、東部大西洋でのスペインのまき網、ガーナ、スペイン等の竿釣り、西部大西洋でのブラジル等の竿釣り、ベネズエラによるまき網である。ひき縄やはえ縄でもわずかに漁獲される。東部大西洋では、近年パナマの漁獲量が増加し、ボルトガルよりも多くなった。主な漁場は、アフリカ西岸ギニア湾の赤道を中心とした熱帯域～北西岸モーリタニア沖のまき網漁場と、ブラジル南東岸沖の竿釣り漁場である。まき網は、1991年からFAD（人工浮き漁礁）操業が本格化し、漁獲量が増大した。



大西洋のカツオの分布域、産卵場及び主な漁場

漁獲の動向

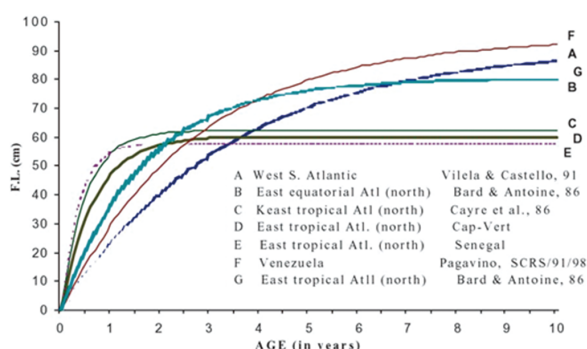
年間漁獲量は1960年代には4千～5万トン、1970年代には5万～12万トン、1980年代には11万～16万トンで推移した。まき網のFAD操業開始により、1991年22万トン、1993年の21万トンがピークで、1995年以降は12万～19万トンで推移している。2011年以降、漁獲量は20万トンを超えるようになり、2018年には31万トンと歴史的に最も多い漁獲量を記録した。日本の竿釣りは、1980年代前半まで東部大西洋で操業し、1976～1981年には1万～2万トンを漁獲したが、現在は行われていない。

資源状態

2014年6月にICCATの科学委員会 (SCRS) において資源評価が実施された。大西洋における本種の生物・漁業学的特徴を考慮して東部・西部大西洋の2海域に区分して資源評価を実施した。東部大西洋では2種類のプロダクションモデル (BSP, ASPIC) 及びその他の2種類のモデル (漁獲量のみを用いる資源評価モデル、Gedamke and Hoenig model) を用いて解析を試みた。これらのモデルからは信頼性のあるMSYが得られなかったが、乱獲状態に陥っていることを示す指標も認められていない。西部大西洋ではMSYは30,000～32,000トンと推定され、資源状態はMSYからの相対値で示された。B₂₀₁₃ / B_{MSY}はおおよそ1.3、F₂₀₁₃ / F_{MSY}はおおよそ0.7である可能性から、西部大西洋では乱獲状態には陥っていないと推定された。以上から、資源は中位で横ばいと判断された。

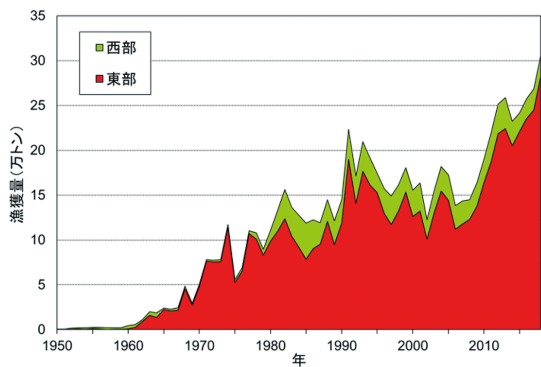
管理方策

2014年11月のICCAT年次会合において、データ不足に起因する資源評価の不確実性がSCRSから指摘されていることを踏まえ、既存の熱帯まぐろ保存管理措置に含める形で、管理方策が初めて設定されたこととなった。それにより、カツオを漁獲する漁船のICCATへの登録、FAD操業の禁漁区・禁漁期等が設定されることとなった。FAD操業の禁漁区・禁漁期は新たなものが2015年に決定、2016年に発行され、2017年より適用され1～2月においてアフリカ沿岸域～西経20度、南緯4度～北緯5度の範囲となっている。2019年のICCAT年次会合において、熱帯まぐろ保存管理措置が改定され、2020年には1～2月の2ヶ月間、2021年には1～3月の3ヶ月間、大西洋全体においてFAD操業の禁止を決定した。FAD数は、1隻当たり一度に350基 (2020年) 及び300基 (2021年) までとなった。2022年以降の措置は今後決定される予定である。

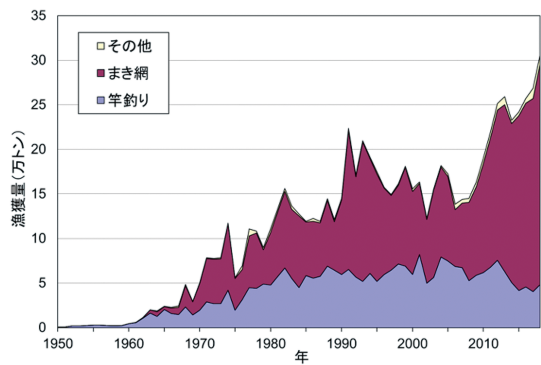


大西洋のカツオの年齢と体長の関係

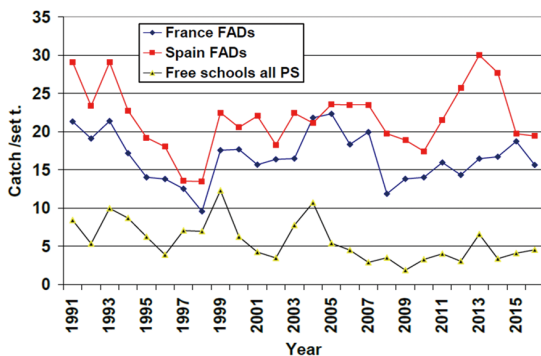
A～Gの曲線は各海域で報告されたカツオの成長を示す。



東部及び西部大西洋におけるカツオ漁獲量の年変化

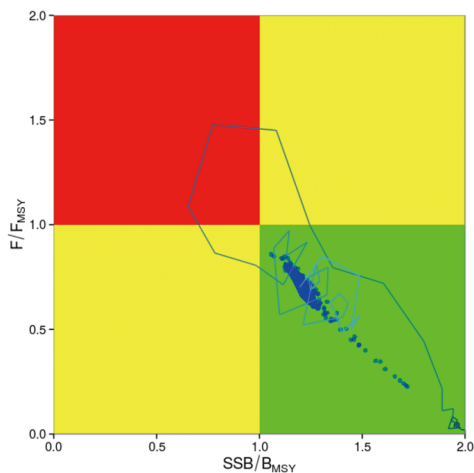


大西洋におけるカツオの漁法別漁獲量の年変化

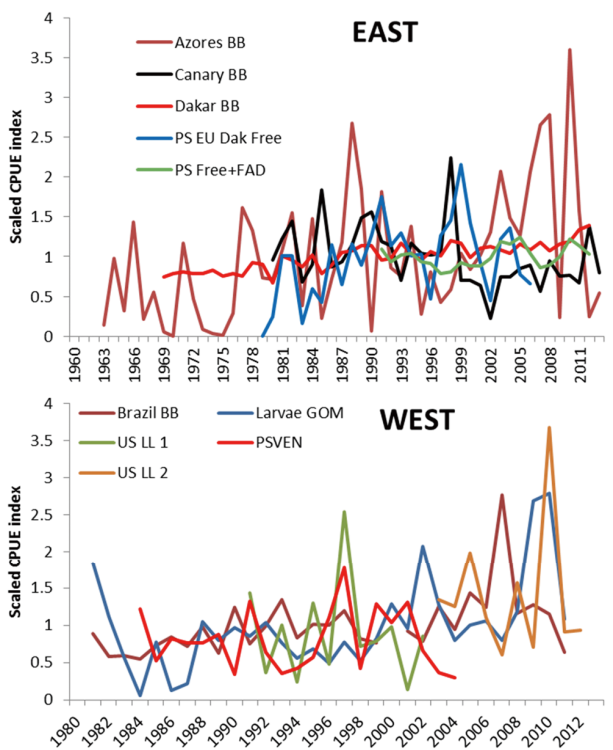


東部大西洋におけるまき網によるカツオ漁獲量（1操業あたり漁獲量）の経年変化

France FADs：フランスのまき網船・FAD操業、Spain FADs：スペイン・その他のまき網によるFAD操業、Free schools all PS：まき網による素群れ操業。



Schaefer型のASPICから推定された西部大西洋のカツオにおける B/B_{MSY} と F/F_{MSY} の歴史的推移



東部大西洋（上）及び西部大西洋（下）におけるカツオCPUEの経年変化
Azores BB：アゾレス諸島の竿釣り、Brazil BB：ブラジルの竿釣り、Canary BB：カナリア諸島の竿釣り、Dakar BB：セネガルの竿釣り、Larvae GOM：メキシコ湾における仔魚採集データ、PS EU Dak Free：ダカールに水揚げされたヨーロッパまき網船の素群れ操業、PS Free+FAD：まき網（素群れ＋FAD操業）、PSVEN：ベネズエラのまき網、US LL：米国のはえ縄。

カツオ（大西洋）の資源の現況（要約表）	
資源水準	中位（西部）
資源動向	横ばい（西部）
世界の漁獲量（最近5年間）	23.2万～30.5万トン 最近（2018）年：30.5万トン 平均：26.1万トン（2014～2018年）
我が国の漁獲量（最近5年間）	1～4トン 最近（2018）年：3トン 平均：2トン（2014～2018年）
管理目標	MSY（3.0-3.2万トン（西部））
資源評価の方法	プロダクションモデル（BSP、ASPIC）等
資源の状態	悪化の兆候は認められない
管理措置	漁船登録 FAD操業の禁漁区・禁漁期、FAD数制限
最新の資源評価年	2014年
次回の資源評価年	2021年